

製品名: Stat6 (リン酸化 Tyr641) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05490**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	94kDa

抗原情報

遺伝子名	STAT6
別名	STAT6; Signal transducer and activator of transcription 6; IL-4 Stat
遺伝子 ID	6778.0
SwissProt ID	P42226
免疫原	抗血清は、ヒト STAT6 の Tyr641 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 608-657

背景

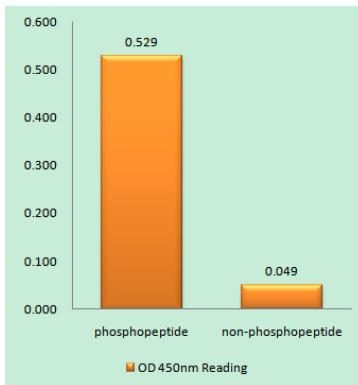
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写因子 STAT ファミリーのメンバーです。サイトカインや成長因子に反応し

て、STATファミリーのメンバーは受容体関連キナーゼによってリン酸化され、その後ホモ二量体またはヘテロ二量体を形成して細胞核に移行し、そこで転写活性化因子として作用します。このタンパク質は、IL4を介した生物学的応答の発現において中心的な役割を果たします。IL4の抗アポトーシス活性を担うBCL2L1/BCL-X(L)の発現を誘導することが分かっています。マウスを用いたノックアウト研究では、この遺伝子がTヘルパー2(Th2)細胞の分化、細胞表面マーカーの発現、免疫グロブリンのクラススイッチに関与していることが示唆されています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2010年5月]、機能:シグナル伝達と転写活性化という二重の機能を果たします。インターロイキン-4シグナル伝達に関与する。、PTM:IL-4およびIL-3刺激後にリン酸化されるチロシン。、類似性:転写因子STATファミリーに属する。、類似性:1つのSH2ドメインを含む。、細胞内局在:リン酸化に反応して核に移行する。、サブユニット:関連ファミリーメンバーとホモ二量体またはヘテロ二量体を形成する(類似性による)。C末端LXXLLモチーフを介してNCOA1と相互作用する。、

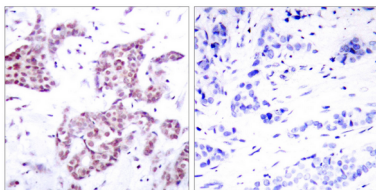
研究分野

ジャク_STAT;

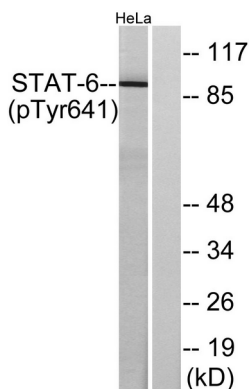
画像データ



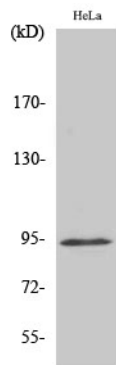
STAT6 (リン酸化 Tyr641) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



STAT6 (リン酸化 Tyr641) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



IL-4処理したHeLa細胞ライセートのSTAT6 (リン酸化 Tyr641) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



Phospho-Stat6 (Y641) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析